

# I

## 全学の FD・SD 活動

### 1. FD・SD 推進委員会の事業方針と運営体制

#### (1) FD・SD 推進委員会事業方針

FD・SD 推進委員会は事業方針の柱である FD 活動の実質化に向けて、これまで①FD 研修会、②授業公開、③授業評価アンケートを実施してきた。2019 年度の事業方針について以下に提示する。

##### ①FD 研修会

全学 FD 研修会について、昨年度に引き続き講演型のみならず、カリキュラム改革と連動したワークショップ参加型など実効性のある研修会を実施する。学部の FD 研修会にも力点をおき、質の高い研修会を実施する。両キャンパスでの実施を目指し、Web 上での研修会録画の閲覧を継続、キャンパス間の中継による参加も実施の検討を進め、参加率を上げるよう努める。

全学 FD 研修会における学内の講演者は、講演内容に関連した改善提案と、関連部署が改善のために取るべきアクションについて、コメントすることを努力義務とする。

学部 FD 活動の内容については、学部の FD 委員を中心として、前年度に掲げた今後の課題を具体化し、今年度の学部における FD 活動の目的と達成目標を明確にし、年間計画を早期に策定して実施に移す。また、目標設定や実施の進捗状況ならびに実施の結果等は、その都度 FD・SD 推進委員会に報告する。

##### ②授業公開

授業評価アンケートの結果をポイント化したうえで、各学部にて授業評価の高かった教員を評価選出し、その教員の担当科目から授業公開を行い、教員にフィードバック、グッドプラクティス事例を共有する仕組みを作り 2019 年度から開始した。

##### ③授業評価アンケート

2018 年度より Web アンケートを実施、項目を統一し簡素化、実施期間を学期終盤に移行することとした。さらに 2019 年度にはバージョンアップした先端なび上での実施に移行し着実に実行した。集中期間等の授業科目についてもアンケートを引き続き実施する。担当教員や学生へのフィードバックの状況を改善し、授業改善に繋げる。さらに、IR 推進委員会との連携を引き続き強化し、アンケートの改訂やデータを分析して、その結果から授業改善へのフィードバックの仕組みを上記の②授業公開として実施した。

次に、教育の質保証に関わる全学的な課題として、以下の点について今年度の FD・SD 推進委員会で推進または検討を行うこととする（全学 FD 研修会のテーマ候補）。

- 1) 2019 年度からのカリキュラム改革実施を踏まえ、新たに質的あるいは能力的に向上が必要なことを研修する。
- 2) 授業評価アンケートの実施を検証し、授業改善につなげる。
- 3) 効果的な授業公開とするための改善を検討し、教育環境の整備を目指す。
- 4) IR 推進委員会で検証・分析した情報を活用して FD・SD 活動として取り組み、授業改善・教育改善を推進する。

SD 活動においては SD 推進部会に代わり教育開発センター事務局が、職員の専門的知識の向上に向けて実効性のある研修会を開催する。

## (2) FD・SD 推進委員会の運営について

### 1) 目的

教育開発センターの事業である FD・SD 活動推進（第 3 条の（5））の目的を達成するため、第 7 条 1 項により常設の委員会として FD・SD 推進委員会を置く。

ここでいう FD（ファカルティ・ディベロプメント）とは、大学設置基準第 25 条の 3、大学院設置基準第 14 条の 3 に規定の内容を踏まえ、授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取組みをいう。具体的には、次のとおり。

- ①教育の質的向上に関する情報の収集
- ②教育の質にかかる現状評価と諸施策の検証
- ③教育の質的向上に向けた諸施策の企画と実施
- ④FD の啓発活動（全学・各学部 FD 活動報告書の取りまとめ等）

また、SD（スタッフ・ディベロプメント）とは、大学設置基準第 42 条の 3、大学院設置基準第 43 条に規定の内容を踏まえ、職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための（FD に相当するものを除く）取組みをいう。なお「職員」には、事務職員のほか、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれる。大学運営業務の高度化を図るための人材育成を目指し、特に大学職員として必要な知識および技能の向上を目的とした組織的な取組みを以下の通り実施する。

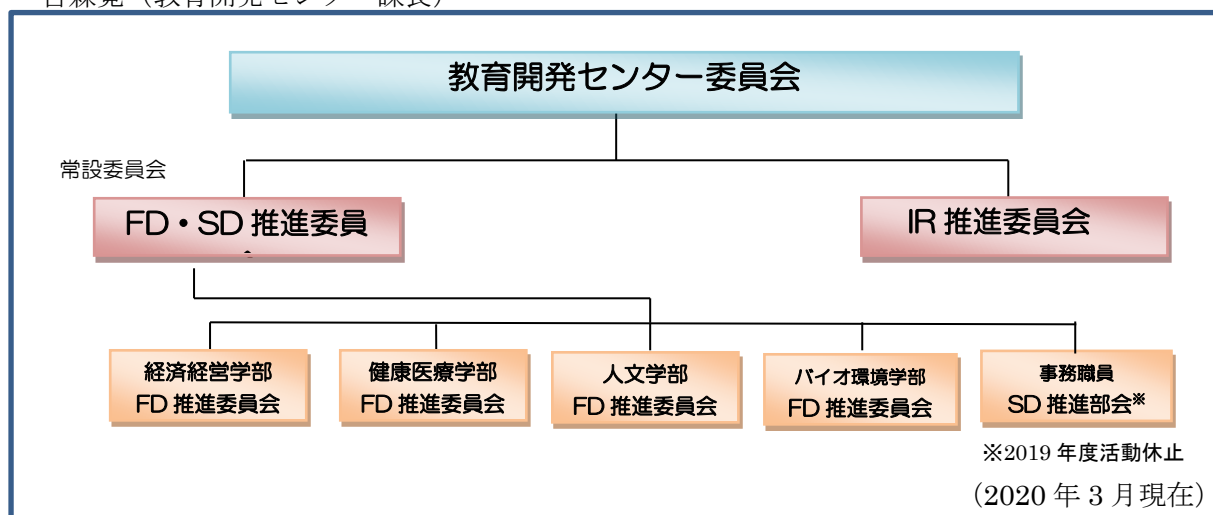
- ①大学職員に必要な知識および技能向上に関する情報の収集
- ②大学職員に必要な知識および技能向上に向けた諸施策の企画と実施
- ③SD の啓発活動（SD 活動報告書の取りまとめ等）

### 2) 期間

2019 年 4 月 1 日（月）～2020 年 3 月 31 日（火）

### 3) 委員（2020 年 3 月現在）

松原守（教育開発センター長）、大野彰（経済経営学部）、古倉聡（健康医療学部）、関口久雄（人文学部）、井口博之（バイオ環境学部）、北本美稚子（教育修学支援センター課長）  
古森寛（教育開発センター課長）



## 2. FD・SD 推進委員会の報告

2019年度は、年間1回のFD・SD推進委員会と年会10回のメール審議を開催した。委員会では、所管する各事業についての企画・運営を行ってきた。主な事業としては、(1)FD・SD研修会の開催、(2)授業公開、(3)学生による授業評価アンケートである。

また、委員会では各学部および事務局で実施されているFD活動、SD活動状況を共有し、全学FD・SD活動との連動を図ってきた。具体的な取り組みは、表1のとおりである。

【表1 2019年度FD・SD推進委員会の取り組み】

月	FD・SD推進委員会	FD・SD研修会	授業評価アンケート	その他
4	24日(水)(太秦) 第1回FD・SD推進委員会	17日(水)(亀岡) 24日(水)(太秦) 第1回FD・SD研修会		
5				11日(土)関西FD総会 【参加者】3名(経済経営学部、 教育開発センター)
6	19日(水) FD・SD推進委員会メール 審議		5月27日(月)～6月9日 (日) 授業評価アンケート 【前半期間】実施	
7	22日(月) FD・SD推進委員会メール 審議	5日(金)(太秦) 第2回FD・SD研修会 10日(水)(太秦) 第3回FD・SD研修会	15日(月)～28日(日) 授業評価アンケート 【通常期間】実施	
8	30日(金) FD・SD推進委員会メール 審議		20日(火) 授業評価アンケートコメ ント入力期限	
9	13日(金) FD・SD推進委員会メール 審議	2日(月)3日(火)(太 秦) 第4回FD・SD研修会 21日(土)(太秦) 第5回FD・SD研修会 26日(木)(太秦・亀岡) 第6回FD・SD研修会		
10	10日(木) FD・SD推進委員会メール 審議	30日(水)(太秦・亀岡) 第7回FD・SD研修会		29日(土)FD合同研修プロ グラム 【参加者】1名(教育開発セン ター)

月	FD・SD 推進委員会	FD・SD 研修会	授業評価アンケート	その他
				ター)
11		6日(水)(亀岡) 第8回FD・SD研修会 12日(火)(太秦・亀岡) 第9回FD・SD研修会 22日(金)(亀岡) 第10回FD・SD研修会	14日(木)ー30日(土) 授業評価アンケート 【前半期間】実施	1日(月)FD合同研修プログラム 【参加者】1名(教育開発センター) 13日(月)京都FD交流会 【参加者】2名(経済経営学部、教育開発センター)
12	10日(火) FD・SD推進委員会メール審議 25日(水) FD・SD推進委員会メール審議	9日(月)(亀岡) 第11回FD・SD研修会 20日(金)(太秦) 第12回FD・SD研修会 23日(月)(太秦) 第13回FD・SD研修会	19日(月)ー1月23日(木) 授業評価アンケート 【通常期間】実施	
1				
2	5日(水) FD・SD推進委員会メール審議	7日(金)(太秦) 第14回FD・SD研修会	11日(火) 授業評価アンケートコメント入力期限	8日(土)FD合同研修プログラム 【参加者】1名(経済経営学部) 22日(土)京都FD交流会 【参加者】2名(経済経営学部、教育開発センター)
3	3日(火) FD・SD推進委員会メール審議 10日(火) FD・SD推進委員会メール審議		4日(水) 2019年度学生アンケートによる授業評価賞決定(各学部1名、合計4名) ※授賞式は本年度無し	2月29日(土)、3月1日(日) 第25回FDフォーラム ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い開催中止

### 3. 授業評価アンケート

本学では以下の3点を主な目的として、授業評価アンケートを実施している。

1. 学生の理解度等を把握し、授業改善に活かす。
2. 教員は学生の声をフィードバックし、学生の満足度を向上させる。
3. 教職員、学生、社会へ評価結果を公表し、本学への信頼と評価を高める。

授業評価アンケートは、2018年度より先端なびを利用し、Webで実施することとなった。各科目担当教員は、最終授業日に、必要な学生にはアンケート回答マニュアルを配布し先端なびからの回答を促し、春学期と秋学期の年間2回実施した（授業開講数週が異なる科目があるため、実施期間を、【前半期間】と【通常期間】と2つの期間に分けた。）。

【表2 2019年度授業評価アンケート実施期間】

	春学期	秋学期
【前半期間】	5月27日（月）～6月9日（日）	11月14日（木）～11月30日（土）
【通常期間】	7月15日（月）～7月28日（日）	12月19日（木）～1月23日（木）

アンケート結果については、教員は担当する科目、学生は履修する科目の集計結果を（公開設定期間中は）先端なび上で確認する。なお科目の担当教員は、自由記述を含めたアンケート集計結果に対して、コメントを入力設定期間内に入力し、学生へ公開した。

通常期間アンケート終了後、全体集計結果を、先端なびと本学ホームページで公表した。

#### (1) 2019年度授業評価アンケート項目

授業評価アンケートは、2017年度まで、「講義科目」、「外国語科目」、「情報科目」、「スポーツ科目」、「ゼミ、オムニバス形式、実験・実習、大学院科目」に分かれ、アンケート項目は、共通設問項目（17項目）と科目群に特化した項目から構成され、共通設問項目のうち項目1～12（12項目）を基本項目としていたが、2018年度より、項目を統一し全科目共通の設問項目となった。

2018年度から現在利用している授業評価アンケート項目は次のとおりである。

123456789 科目A (教員B)

### 2018年度 春学期 授業評価アンケート

このアンケートは、教員が日々の授業の内容や方法を改善する資料を得るために行うものです。ぜひご協力をお願いいたします。回答いただいたみなさんの個人情報や回答内容は、個人が特定されるかたちで公表されることはありません。また、このアンケートが成績に影響を及ぼすことはありません。

質問は全部で11問です。

※今回だけでなく、第1回から今回までの授業全体に対して回答してください。

※オムニバス等、複数担当者の科目についても、特定の先生についてではなく、授業全体に対して回答してください。

※回答（自由記述含む）は担当教員が閲覧しますが、学籍番号と氏名は表示されないため、回答者は特定されません。

問1 この授業の「到達目標」を理解していますか。（必須）

- 理解している  なんとなく知っている  
 一度は見たり聴いたりしたが、覚えていない  一度も見たり聴いたりしていない

問2 この授業は理解できますか。（必須）

- 理解できる  やや理解できる  あまり理解できない  理解できない

問3 この授業の内容の難易度はどうですか。（必須）

- 難易度が高い  やや難易度が高い  ちょうどよい  やや難易度が低い  難易度が低い

問4 この授業の進むスピードはどうですか。（必須）

- 速い  やや速い  ちょうどよい  やや遅い  遅い

問5 この授業の教え方はわかりやすいですか。（必須）

- とてもわかりやすい  わかりやすい  わかりにくい  とてもわかりにくい

問6 この授業で「理解できない」「わかりにくい」と感じるのはどの部分ですか。問3・問4以外の理由があれば書いてください。（自由記述）

問7 この授業を受講して、どの力が最も伸びたと思いますか。（必須）

- コミュニケーション力  協働力  適応力  行動力  課題発見力  論理的思考力  特になし

問8 この授業1回あたり、授業時間外で予習・復習・課題等に費やす時間はだいたいどれくらいですか。（必須）

- 120分以上  90分～120分  60分～90分  30分～60分  0～30分

問9 この授業はあなたの成長に役立ちましたか。（必須）

- とても役に立った  役に立った  あまり役に立たなかった  役に立たなかった

問10 授業改善に役立つよう、良かった点や後輩にすすめる点等について、できるだけ具体的に記述してください。（自由記述）

問11 授業改善に役立つよう、改善してほしい点等について、できるだけ具体的に記述してください。（自由記述）

アンケート項目は以上です。「回答」ボタンをクリックして提出してください。

ご協力ありがとうございました。

※回答期間中は回答内容の変更が可能です。

なお、集計結果は以下の期間中に京学なび上で公表します。

集計結果公表期間：2018年7月31日（火）～2018年9月15日（土）

[回答](#)

## (2) 授業評価アンケート実施結果

### 1) 授業評価アンケート実施状況

授業評価アンケートの提出状況は表 3 のとおりである。2018 年度からのアンケート Web 化により実施率が下がった。履修者がいても回答者がいない科目は実施科目数に含まれないので、アンケート用紙を配布して実施していた時と比較して履修者が少ない科目の回答が少なくなったと考えられる。一方、自由記述の設問数を増やしたことに加え、Web 化により学生がアンケートに答えやすくなったことで自由記述の回答数が多くなったのは成果といえる。

【表 3 2019 年度授業評価アンケート実施状況】

年度	学期	対象科目数	実施科目数※1	実施率※2	教員コメント数	教員コメント率※3	自由記述数①※4	自由記述数②※4	自由記述数③※4
2019	秋	1,156	923	79.8%	242	26.2%	403	748	667
	春	1,184	855	72.2%	292	34.2%	682	1,018	964
2018	秋	1,092	772	70.7%	138	17.9%	263	380	218
	春	1,174	1,011	86.1%	541	53.5%	795	1,198	1,107
2017	秋	962	886	92.1%	449	50.7%	708		
	春	998	924	92.6%	368	39.8%	788		
2016	秋	1,057	974	92.1%	426	43.7%	548		
	春	1,068	991	92.8%	414	41.8%	812		

(※1) 1 名でも回答者が存在する科目は「実施科目数」に含まれています。

(※2) 実施率＝実施科目数÷対象科目数

(※3) 教員コメント率＝教員コメント数÷実施科目数 \*学生の回答がない科目に対してもコメントいただいておりますが、ここでは含んでおりません。

(※4) 自由記述数は、科目数ではなく、学生の述べ回答数です。

\*自由記述の①②③は以下のとおり (2018 年度春～)

自由記述①…問 6 「この授業で「理解できない」「わかりにくい」と感じるのはどの部分ですか。問 3・問 4 以外の理由があれば書いてください。」

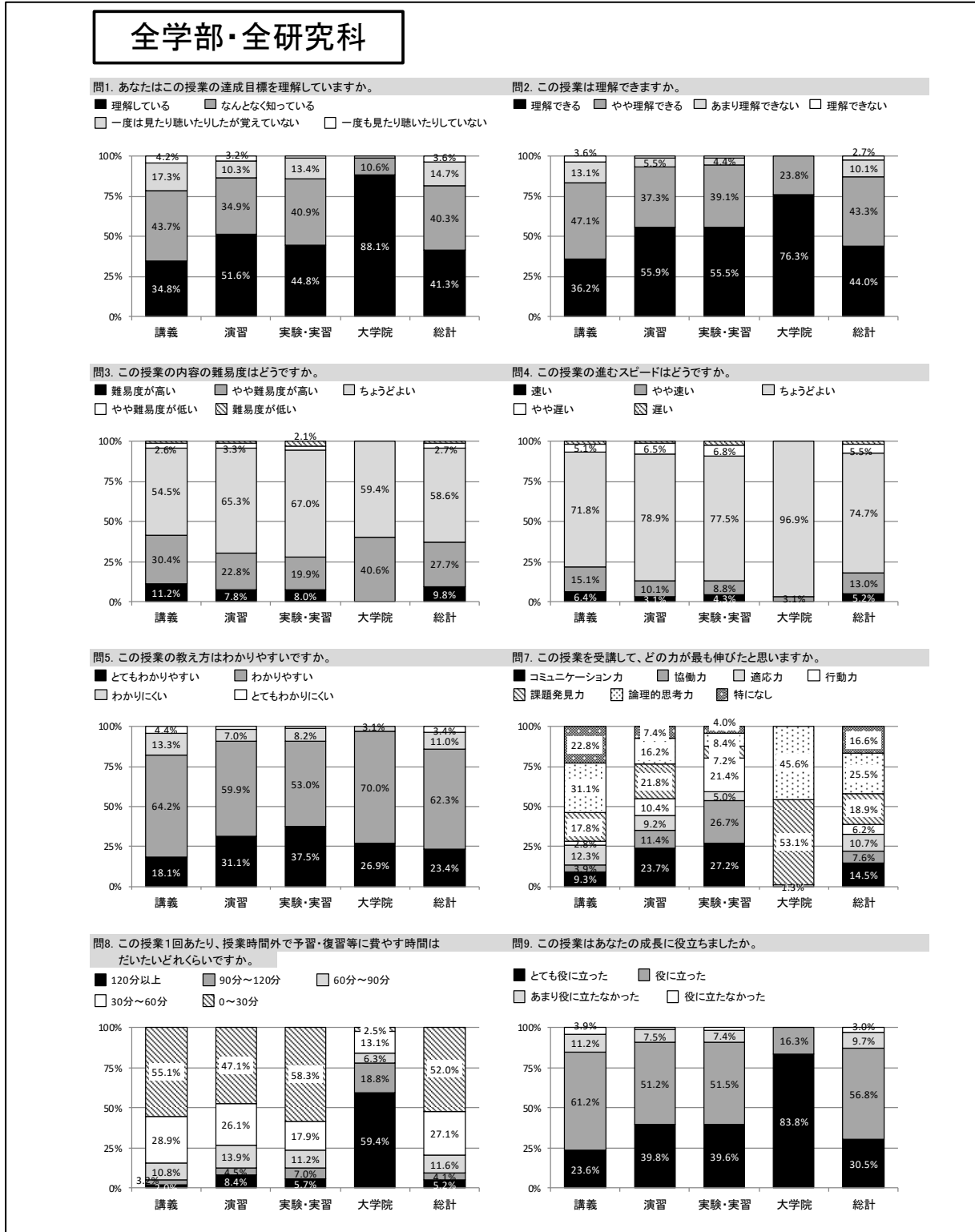
自由記述②…問 10 「授業改善に役立つよう、良かった点や後輩にすすめたい点等について、できるだけ具体的に記述してください。」

自由記述③…問 11 「授業改善に役立つよう、改善してほしい点等について、できるだけ具体的に記述してください。」

## 2) 授業評価アンケート全体集計結果

授業評価アンケートの全体集計結果は表4および表5のとおりである。

【表4 春学期 授業評価アンケート全体集計結果】



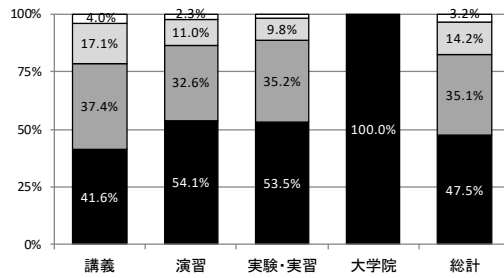


【表 5 秋学期 授業評価アンケート全体集計結果】

## 全学部・全研究科

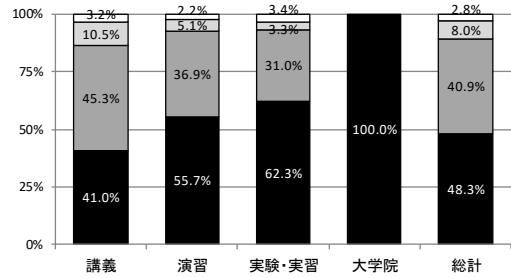
問1. あなたはこの授業の達成目標を理解していますか。

理解している     なんとなく知っている  
 一度は見たり聴いたりしたが覚えていない     一度も見たり聴いたりしていない



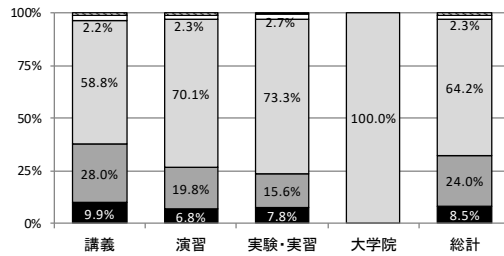
問2. この授業は理解できますか。

理解できる     やや理解できる     あまり理解できない     理解できない



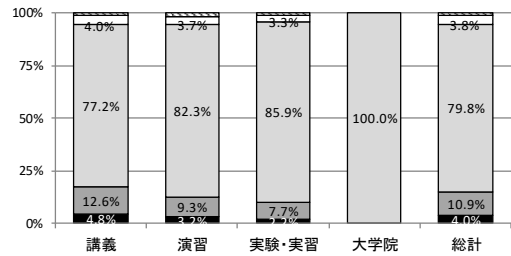
問3. この授業の内容の難易度はどうですか。

難易度が高い     やや難易度が高い     ちょうどよい  
 やや難易度が低い     難易度が低い



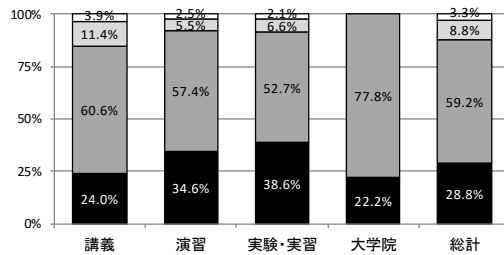
問4. この授業の進むスピードはどうですか。

速い     やや速い     ちょうどよい  
 やや遅い     遅い



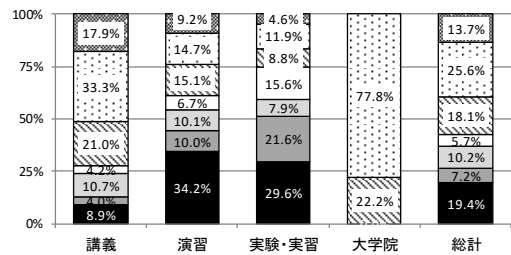
問5. この授業の教え方はわかりやすいですか。

とてもわかりやすい     わかりやすい  
 わかりにくい     とてもわかりにくい



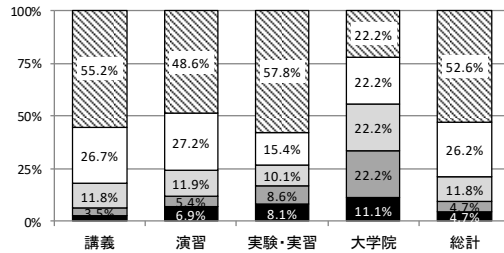
問7. この授業を受講して、どの力が最も伸びたと思いますか。

コミュニケーション力     協働力     適応力     行動力  
 課題発見力     論理的思考力     特になし



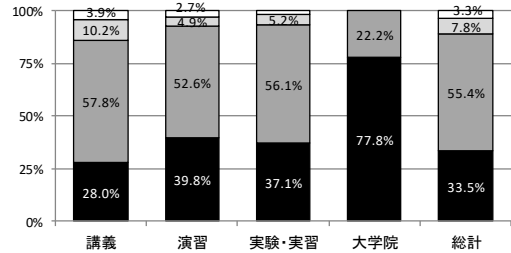
問8. この授業1回あたり、授業時間外で予習・復習等に費やす時間は  
 だいたいどれくらいですか。

120分以上     90分~120分     60分~90分  
 30分~60分     0~30分



問9. この授業はあなたの成長に役立ちましたか。

とても役に立った     役に立った  
 あまり役に立たなかった     役に立たなかった



### 3) 学生アンケートによる授業評価賞

本学では2010年度より年度を通じて教育上の功績が高いと認められた教員を「Best Teacher賞」として選出し表彰している。2018年度より名称を「学生アンケートによる授業評価賞」とし、FD・SD推進委員会において、授業の性格や学生の授業評価アンケート、授業の運営方法など広範な視点から教育上高い評価が認められる教員を選び、学長より表彰が行われる。(※2019年度は新型コロナウイルス感染症の影響で表彰は取りやめとなった)

2019年度の実賞者は表6のとおりである。

【表6 学生アンケートによる授業評価賞受賞教員】

学部	氏名(敬称略)
経済経営学部	右近 潤一
人文学部	平 雅行
健康医療学部	吉田 絵美
バイオ環境学部	寶関 淳

## 4. FD・SD 研修会

2019年度は、表7のとおり、年回14回のFD・SD研修会を実施した。  
 (※各回実施内容等は「IV 資料編」を参照)

【表7 2019年度 FD・SD 研修会実施状況】

	開催日	テーマ（講師）	参加人数
第1回	4月17日（水） 4月24日（水）	「公的研究費の運営・管理に関する取組みについて」 高瀬尚文 研究・連携支援センター長 「科研費プロの使用方法について及び科研費使用における 注意事項について」 研究・連携支援センター 前川珠実 職員	100名 （教員82名、 職員18名）
第2回	7月5日（金）	「働き方改革と女性活躍推進の潮流と日本電産の取組」 平田智子 日本電産人事部長兼女性活躍推進室長	22名 （教員8名、 職員14名）
第3回	7月10日（水）	「未来展望科目実施のための各科目リーダー向け研修」 大阪大学 佐藤浩章 准教授	6名 （教員6名）
第4回	9月2日（月） 9月3日（火）	「大学教員のための授業づくりワークショップ」 （新任教員と改めて基礎から学び授業を見直したい教員向け） 大阪大学 佐藤浩章 准教授	12名 （教員12名）
第5回	9月21日（土）	授業評価賞受賞者による授業公開の意見交換会（1） 「フィールドワーク京都B」 人文学部 山本淳子 教授	1名 （職員1名）
第6回	9月26日（木）	「科学研究費助成事業の動向と適切な管理および 令和2年度公募の変更点について」 田中和博 バイオ環境学部長・中西絵美 職員	34名 （教員23名 職員11名）
第7回	10月30日（水）	「障害のある学生の支援について」 学生センター障害学生支援室 川端 康宏 職員	65名 （教員17名 職員48名）
第8回	11月6日（水）	授業評価賞受賞者による授業公開の意見交換会（2） 「実践プロジェクトB」 健康医療学部 青木好子 教授 健康医療学部 平川和文 教授	9名 （教員6名 職員3名）
第9回	11月12日（火）	「マナーと印象管理」実践セミナー 経済経営学部 茅野千江子 教授 合原美紀子 教育コンサルタント	100名 （教員89名 職員11名）

第10回	11月22日(金)	授業評価賞受賞者による授業公開の意見交換会(3) 「都市緑化材料学」 バイオ環境学部 阿野晃秀 嘱託講師	5名 (教員2名 職員3名)
第11回	12月9日(月)	授業評価賞受賞者による授業公開の意見交換会(4) 「キャリアデザインⅡ」 経済経営学部 三保紀裕 准教授	2名 (教員1名 職員1名)
第12回	12月20日(金)	教員向け「先端なび利用の勉強会」(1) 学術情報センター/NTT 西日本担当者	19名 (教員19名)
第13回	12月23日(月)	教員向け「先端なび利用の勉強会」(2) 学術情報センター/NTT 西日本担当者	23名 (教員23名)
第14回	2月7日(金)	「今、京都先端科学大学で、行うべき教育とは？」 ～他大学の学生との比較という観点から 人文学部 池田恭浩 准教授 人文学部 関口久雄 准教授	36名 (教員24名 職員12名)

## 5. 学外研修会等への参加状況

学外における FD・SD 研修は、本学が参加する団体（大学コンソーシアム京都、並びに関西地区 FD 連絡協議会）において主催する研修に、参加教職員が自ら申し込むことを報告する形式としている。

職員の SD に関わる研修として、2019 年度は試験的に「JMAM e ラーニングライブラリ」に申し出た 30 人の職員が参加することとした。

【表 8 2019 年度 外部の研修会（大学コンソーシアム京都、並びに関西地区 FD 連絡協議会など）への参加状況】

開催日	テーマ (会場)	参加人数 (所属)
5 月 11 日 (土)	関西地区 FD 連絡協議会講演	3 名 (経済経営学部 2 名、教育開発センター)
10 月 29 日 (火)	大学コンソーシアム京都 2019 年度 FD 合同研修プログラム・テーマ別研修 第 3 回「学習支援・特別支援ワークショップ」	1 名 (教育開発センター)
11 月 1 日 (金)	大学コンソーシアム京都 2019 年度 FD 合同研修プログラム・テーマ別研修 第 4 回「学習者中心の授業ワークショップ」	1 名 (教育開発センター)
11 月 2 日 (土)	第 1 回未来の教養教育研究会	2 名 (経済経営学部、教育開発センター)
11 月 13 日 (水)	大学コンソーシアム京都 第 2 回 京都 FD 交流会 「学修の到達度」について考える	2 名 (経済経営学部、教育開発センター)
12 月 14 日 (土)	中部大学中部高等学術研究所シンポジウム 「21 世紀のリベラルアーツ」	2 名 (経済経営学部、教育開発センター)
2 月 8 日 (土)	大学コンソーシアム京都 第 6 回 合同研修プログラム・テーマ別研修 「ケースメソッドを用いた成績評価のためのワークショップ」	1 名 (経済経営学部)
2 月 22 日 (土)	大学コンソーシアム京都 第 3 回京都 FD 交流会「ゼロからわかるルーブリック」	1 名 (経済経営学部)
2 月 29 日 (土) 3 月 1 日 (日)	大学コンソーシアム京都 第 25 回 FD フォーラム ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い開催中止	7 名予定 (経済経営学部 4 名、人文学部、バイオ環境学部 2 名)

## 6. FD・SD推進委員会の記録

2019年度のFD・SD推進委員会の記録は、表9のとおりである。

【表9 2019年度 FD・SD推進委員会の記録】

	開催日	内容
第1回	2019年 4月24日(水)	議題1. 2019年度FD・SD推進委員会の事業方針と運営について(案) 議題2. 2019年度FD・SD推進委員会事業とスケジュールについて(案) ①FD・SD研修会について ②授業公開について ③授業評価アンケートについて 議題3. 2019年度の委員の分担について 議題4. 委員会開催日程について 議題5. 学習成果の評価について
メール審議	2019年 6月19日(水)	議題1. 2019年度FD・SD研修会実施計画について
メール審議	2019年 7月22日(月)	議題1. 2019年度FD・SD研修会実施計画について
メール審議	2019年 8月30日(金)	議題1. 2019年度春学期授業評価アンケート集計結果の報告について 議題2. 2019年度秋学期授業評価アンケートの実施と要領について 議題3. 第1回FD・SD推進委員会議事録について
メール審議	2019年 9月13日(金)	議題1. 2019年度FD・SD研修会実施計画について 議題2. SDを事後報告可とする件について
メール審議	2019年 10月10日(木)	議題1. 2019年度FD・SD研修会実施計画について
メール審議	2019年 12月10日(火)	議題1. 2019年度FD・SD研修会実施計画について
メール審議	2019年 12月25日(水)	議題1. 2019年度FD・SD研修会実施計画について
メール審議	2020年 2月5日(水)	議題1. 2019年度学生アンケート(授業評価アンケート)による 授業評価賞教員推薦のご推薦 議題2. 2019年度秋学期授業評価アンケート集計結果について

	開催日	内容
メール審議	2020年 3月3日(火)	議題 1. 2019年度 学生アンケートによる授業評価賞受賞者決定について
メール審議	2020年 3月10日(水)	議題 1. 2019年度 FD・SD 推進活動報告書の作成スケジュールについて

## 7. 2019 年度の FD 活動・SD 活動の総括

2019 年度 FD 活動・SD 活動の総括として、FD・SD 推進委員会が従来から取り組んでいる、(1) 学生による授業評価アンケート、(2) 授業公開、(3) FD・SD 研修会について、実施・運営を従来に引き続き行うことができた。特記事項として以下の点が挙げられる。

- ① 授業評価賞の受賞教員による授業公開並びに意見交換会を新たに開始した。
- ② FD・SD 推進委員会にて実施計画を検討したうえで年間 14 回の FD・SD 研修会を行った。研修会は基本的に Web 上で閲覧できる体制を整え、授業や公務にて出席できない教職員への対応も図った。
- ③ 本学所属団体（大学コンソーシアム京都、関西地区 FD 連絡協議会）による FD・SD 研修会等への参加を支援した。
- ④ 本年度より試験的に e ラーニングシステムによる事務職員 SD 研修を開始した。

## 8. 2020 年度の FD 活動・SD 活動に向けた課題

2020 年度より教育開発センター所管の委員会を大幅に見直し、FD・SD 推進委員会の役割は教育開発センター委員会が引き継ぐことになった。教育開発センター委員会は IR 推進委員会の役割も引き継いだため、FD・SD 活動に限らず教育開発に関する取り組みを迅速に審議する取り組みが整った。現行制度にて検討が必要な事項は速やかに対応していきたい。

教職員の教育力向上の支援及び推進に向けて以下の FD（大学全体レベル・学位プログラムレベル・授業科目レベル）に落とし込み順次開催していく。

- ①. 各種アセスメント結果・現状の学生の分析結果を用いて意見交換、次期カリキュラム改革に向けての知見を深める機会の提供。
- ②. 成績評価基準の適切な運用（ルーブリックの活用、GPA 算出と活用等）、評価基準を通しての、個々の授業科目の見直しにつながる機会提供。
- ③. 学修成果の可視化（学生個人の学修成果の評価方法）、2020 年度に学修ポートフォリオが導入されるため、学生指導/支援を行うにあたっての教職員の知識・技能の力量形成をはかるための機会提供。